

長谷川豪 『五反田の住宅』

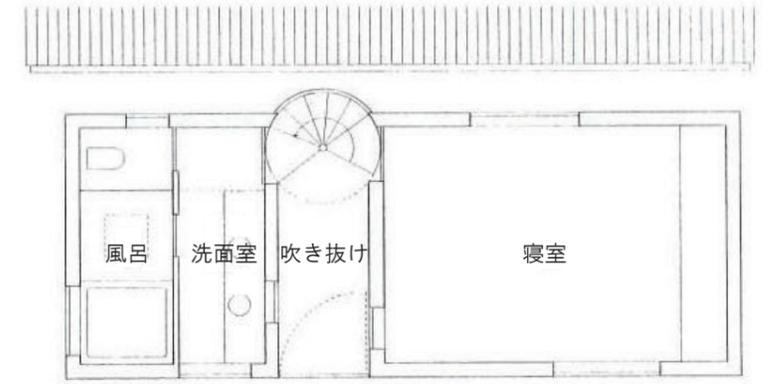
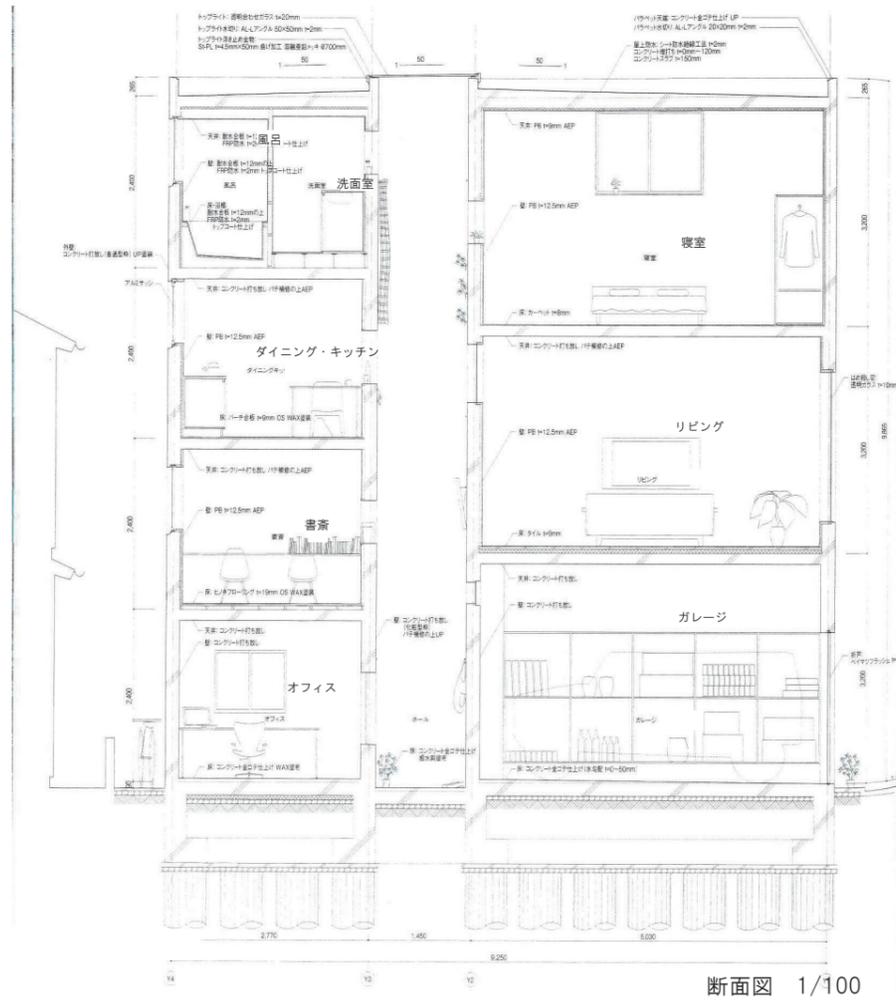
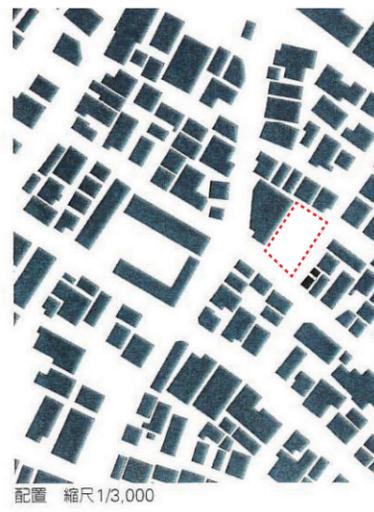
敷地は種類や大きさのバラバラな建物が建つ過密地域の角地にある。

施主が若夫婦でまだ家族構成が決まってないことから、個室をつくることが求められた。

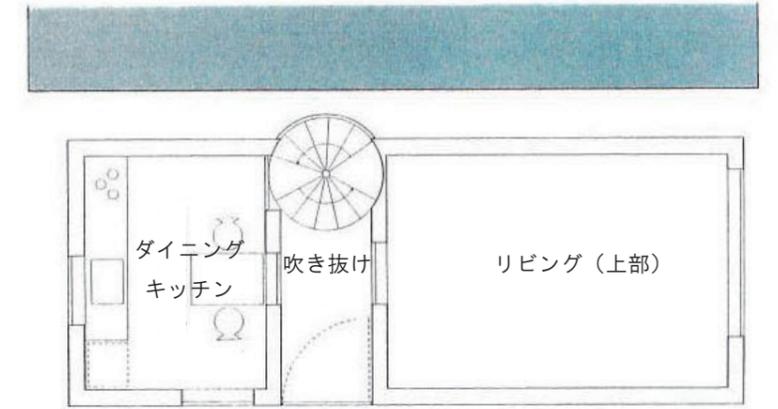
建物を二棟に分け、南棟を11畳の3階建て、北棟を6畳の4階建てとして各階に部屋を設けた。

リビングとダイニングキッチン、互いに一つの開口を介して視線が貫通するため、隣の家をのぞいているかのような不思議な距離感を持ちながら一体感も感じられる。また、2棟の間に幅1.2m程の隙間があり、ガラス屋根を架けて玄関兼階段室としている。この階段は、上り下りのたびに、隣家との隙間・部屋・ホール…といったようにインテリアと街を交互に体験する。

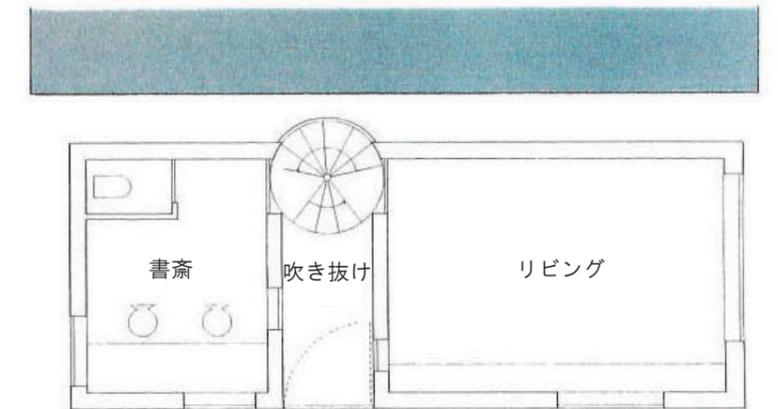
玄関の約10mの大きな扉を開けると大量の光や風、街の音が入ってくるため、ホールが街の一部になり、各部屋には街から直接入るかのようであり、街と家の境界があいまいで自由な暮らしができる。



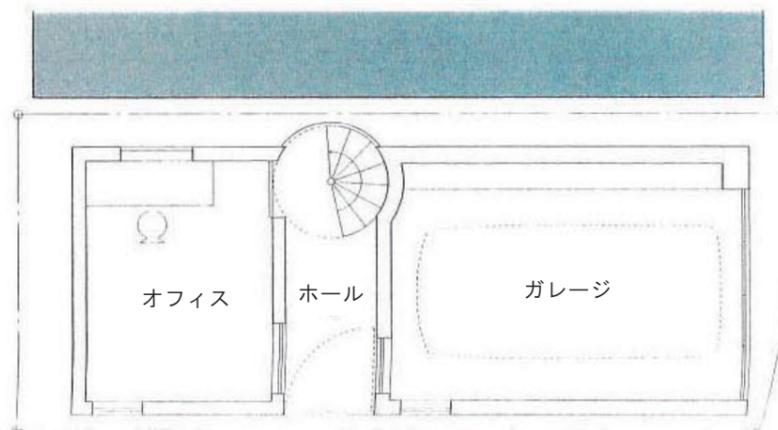
4階平面図



3階平面図



2階平面図



1階平面図 1/100

